

<三浦外洋セーリングクラブ 理事会議事録>

開催日：2025年3月12日 18:30～19:40

場所：新橋駅前ビル 1号館 6階 605号ダ・ヴィンチ大会議室+Zoom ミーティング

出席者：理事：飯島、庄野、坂口、臼田、加藤、菅野、尾山、石原、内倉、栗山

Zoom 出席者理事：五十嵐、鈴木綾、最川、黒岩、小川

監事：小川 (Zoom)

顧問：児玉 (Zoom) 平松 (Zoom)

オブザーバー：藤村 (Zoom) (敬称略)

庄野理事の進行により新橋の会議場と Zoom ミーティングの併用によるハイブリッド会議を実施、飯島会長から挨拶があり議事録作成に加藤理事、議事録署名人に内倉理事を指名し会議を開催。開始時理事 11名の出席で定足数を満たす為理事会が成立し下記議案等を審議報告した。

<審議事項>

1. 10年後のMOSCについての意見交換

飯島会長より MOSC はここ数年連続で単年赤字を出している。当クラブは会員数の増減に関係なく現在の事業内容での出費は大きく変わらないが、現状では今後の会員数の伸びは期待できない。そのため、10年先のことを考えて今から対処していかななくてはならない、とこの議題の主旨説明があり意見交換が開始された。まずは坂口事務局長および庄野理事から提出された資料から、湘南レースに参加している艇のオーナーの年齢分布を確認し、団塊の世代以上の世代が半数以上を占めることを確認した。次に会員の年齢分布図を確認、1972年生まれ以降から急激に下がっており、これはバブル崩壊後の就職氷河期と重なり車などを所有しないデフレ世代の問題でもあることが確認された。それらを踏まえ様々な意見を交換した。

<外洋会員を増やすには>

- ・艇登録数は安定しているが、クルーが減っていることが問題に思える。クルー乗船外洋会員 51%以上という資格を他のレースでも増やしたらどうか。トランスサガミもカテゴリー 3 なので外洋会員 51%以上の参加資格でいいのでは無いだろうか？
- ・会員メリットを充実させる。レースに出ない方に何らかのメリットがあった方がいいのではないか？例えば、すでにある安価で加入できるセラーズ保険をもっと告知することで効果が出るかなどを検討する。
- ・会費値下げをするだけでは効果がないと思う。
- ・オーナーからクルーの入会を促す。
- ・スキー人口も減っている。ヨット界だけの問題では無い。
- ・学連や、ディンギー出身者を、外洋ヨットへ惹きつける対策が必要では？ JSAF もキールボートで実施している。
- ・ヨット界全体の問題。他の人気スポーツのように、ヨット界を盛り上げるためにアイコンとなるプレイヤーが必要。
- ・加盟団体の意義がよくわからない、クラブレースだけの参加者には、メリットがわからない。
- ・クラブの新規入会者を積極的にフォローする。新しくヨットを始めたい人はいる。

<MOSC 赤字に対して>

- ・ JSAF 関連の地方会議は、移動コストが高いので Zoom 参加などコストダウンを提議していく。
- ・ 出費を減らすだけではなく、事業収入を増やす方法も一緒に考えていくべき。
- ・ 主催レースで収入を得ることも考えては？
 - ・ 湘南レースに関してボランティア・スタッフの派遣はリビエラと協議しては？
- ・ 同じ問題を抱える近隣の外洋団体と合併も考えては？

など様々な意見が出され継続審議となった。

<報告事項>

1. 2025 年の組織図について

飯島会長より総会を経て 2025 年の組織図をホームページに更新したと報告があった。

2. ルール・安全講習会について

高木安全委員長が欠席の為、ホームページに掲載されている通りと確認した。

3. 3/30 関東外洋 4 団体主催レースオフィサー B 級ジャッジの更新講習会について

五十嵐ルール委員長より B 級ジャッジ保持者に案内状を出しているが、団体長の承認手続きが何人か返信がない。案内が届いているか対処を前委員長の三輪さんとも相談して進めたいと報告があった。

4. 小笠原レースの進捗について

坂口事務局長より現在参加艇は 7 艇。もう数艇増えるかもしれないとの報告があった。MOSC では、艇長会議を小網代ヨットクラブで実施、本部船をサーモン 4 が運営、アウトターのリブポートを坂口事務局長が担当、当クラブはスタートを担当する予定となっている。五十嵐理事は小笠原でフィニッシュなどを担当すると報告があった。参加する児玉顧問よりぜひスタートに応援に来て下さいとのひと言があった。

以上で本日の議事をすべて終了し、19 時 40 分に理事会を閉会した。

2025 年 月 日

議事録署名人